

地域でつくる 大台の森



株式会社富士通中部システムズ 企業の森 植樹風景

大台町苗木生産協議会

平成23年



大台ヶ原原生林

NPO 法人大杉谷自然学校 森正裕氏 撮影

お問い合わせ

大台町苗木生産協議会 事務局 宮川森林組合

〒519-2505

三重県多気郡大台町江馬316

TEL:0598-76-0135

FAX:0598-76-0263

E-mail:miyashin@ma.mctv.ne.jp

大台町苗木生産協議会ができるまで

大台町の林業の歴史

大台町は、三重県の中南勢地域の南西部に位置し、面積は 362.94k m²で、その 90%以上を山林が占めています。また、町の中央を流れる一級河川・宮川は、これまで「清流日本一」に何度も選出されています。

古くは 1304 年の伊勢神宮式年遷宮の際に、御杣山として江馬山の材木が使われていました。明治 30 年代後半には計画的な造林が一般化し始め、昭和 30 年代に急速に規模が拡大しました。戦後、天然林は薪炭林として活用された後、スギを中心とした拡大造林が一斉に始まりました。

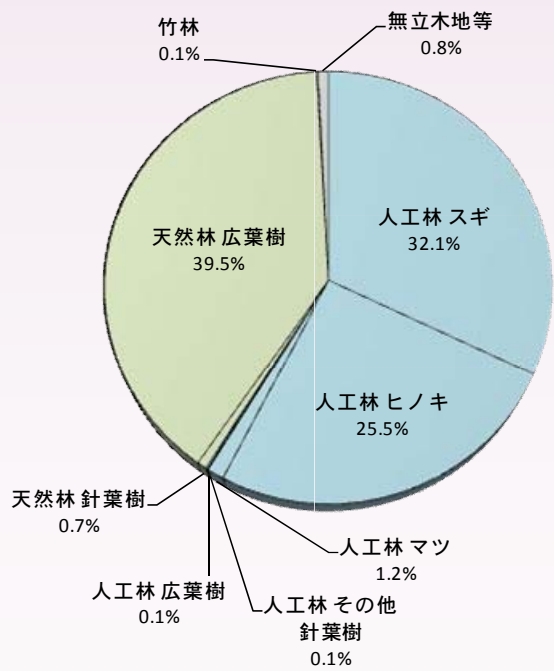
近年は、木材価格の低迷や後継者不足等の原因により林業生産が著しく停滞し、手入れが行き届かない人工林が増加することとなりました。また、平成 16 年 9 月 28 日から 29 日にかけて台風 21 号が当地を襲い、増水・土石流・山腹崩壊など大惨事が生じ、尊い人命も失われました。



大台町桧原 野又谷



大台町小滝 始神谷



大台町の民有林樹種別面積割合
「平成 19 年度版森林・林業統計書」より

大台町苗木生産協議会は、日本一の清流とも言われる宮川の上流域にある自然豊かな大台町の旧宮川村地域を中心に設立されました。

協議会の発足の背景

近年、大台町では、皆伐後の未造林地の増加や災害による崩壊地の発生により、周辺住民から緑化を求める声が高まっています。

しかし、従来行われてきた地域性を考慮しない画一的な植林を行うと、もともとその地域にあった多様な生態系の破壊、遺伝子のかく乱などの問題が発生する可能性があります。そこで、大台町では、地域林業全体の活性化、多様な生態系を維持した森林の回復のために、その地域に自生する樹木の種子から育てた「地域性苗木」を生産することになりました。



ブナの種



ヒメシャラの実生



大台ヶ原原生林

NPO 法人大杉谷自然学校 森正裕氏 撮影

協議会の役割

協議会は、大台町広報誌「広報おおだい」での公募により、平成 20 年 3 月、会長の天野忠一を含めた 15 名で組織されました。事務局は宮川森林組合に置いています。

設立の目的は「地域性苗木・特用林産用苗木の生産、及び、育苗技術の向上を図ると共に、地域性苗木による山林緑化の重要性の理解増進に努めること」とし、現在では、専門家の方々からもアドバイスをいただきながら、約 100 種類の苗木の生産を行っており、将来的には、さらに多様な樹種の生産を目指しています。



天野忠一会長

地域との協働による苗木づくり

地域性苗木生産全体の流れ

地域性苗木生産にあたって、ここでは調査・採種・育苗（播種・鉢上げ、管理等）と大きく分けて説明します。中でも重要となってくるのが植生調査です。どの場所に何の樹種があるか、なぜその樹種がその場所にあるかは地域性苗木の生産にとってとても重要なものになっています。また近年では、ウサギや鹿の獣害がひどく、獣害ネットを設置して苗を保護しなければならないという厳しい現状となっています。動物との共存もこれからの地域性苗木のひとつの課題となっていくでしょう。



獣害ネット

- ① 現地に出向き植生を調査します。



- ④ ある程度成長したら鉢上げをします。 ③ 採種した種を播種します。



- ⑤ 水・肥料などで丁寧に育苗します。



地域が一体となった苗木生産のしくみづくりを目指すとともに、系統的遺伝子の保全と多様性のための品質の確保・植栽現場に適應する苗木生産に取り組んでいます。

生産状況・生産履歴の記録

協議会では、「地域性苗木採種・生産記録の取り方（案）」（日本植木協会 地域性苗木生産研究会、平成 20 年）をもとに、苗木の生産に際して、生産者ごとの規格別の生産本数を「生産状況」として、また、種子採取地、採種・播種・鉢上年月日といった情報を「生産履歴」として保存しています。なお、採種の際にはGPSを用いて緯度・経度、標高、斜面方位といった採種した母樹の位置情報を記録し、地域性苗木の証明として使用しています。

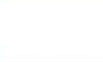
生産記録を作成する目的・意義としては、生態系の保全に寄与、一般的な苗木との差別化、植栽現場への適応のための情報管理等が挙げられます。

地域性苗木証明書			
種			
平成 年 月 日			
千葉県多気郡大田町江馬 314			
大田町苗木生産協議会			
下記の種名を産出。地域性苗木であることを証明する。			
証			
産 出 地	平成 21 年度〇〇〇〇販売額		
施工 産地	多気郡大田町〇〇		
樹 種 名	規格・樹 形	数 量	
アブラハ	ポット苗・樹高 50cm以内	21 本	
アサギナシズ	ポット苗・樹高 50cm以内	21 本	
ウツナギ	ポット苗・樹高 50cm以内	42 本	
ウツナギ	ポット苗・樹高 50cm以内	18 本	
コナラ	ポット苗・樹高 50cm以内	18 本	
ムツサギナギ	ポット苗・樹高 50cm以内	21 本	
モモ	ポット苗・樹高 50cm以内	18 本	
ヤマザクラ	ポット苗・樹高 50cm以内	21 本	
ヤマザシ	ポット苗・樹高 50cm以内	18 本	
計		180 本	

証印欄

地域性苗木生産協議会

地域性苗木証明書

地塊性苗木母樹詳細						
地塊: 01077		地塊: 01077b				
記錄者: 香港大學自然史系		調查者: 2008.06	樹高:	樹冠:	葉:	果:
樹名:	樹高:					
樹冠:	樹高:					
樹冠:	樹高:					
樹冠:	樹高:					
樹冠:	樹高:					
樹名:	樹高:					
樹冠:	樹高:					
樹冠:	樹高:					
樹冠:	樹高:					
樹冠:	樹高:					
樹名:	樹高:					
樹冠:	樹高:					
樹冠:	樹高:					
樹冠:	樹高:					
樹冠:	樹高:					
樹名:	樹高:					
樹冠:	樹高:					
樹冠:	樹高:					
樹冠:	樹高:					
樹冠:	樹高:					
樹名:	樹高:					
樹冠:	樹高:					
樹冠:	樹高:					
樹冠:	樹高:					
樹冠:	樹高:					
樹名:	樹高:					
樹冠:	樹高:					
樹冠:	樹高:					
樹冠:	樹高:					
樹冠:	樹高:					

(表格說明: 1. 記錄者為香港大學自然史系; 2. 記錄日期: 2008年6月; 3. 樹高: 樹高; 4. 樹冠: 樹冠; 5. 葉: 葉; 6. 果: 果)

地域性苗木母樹詳細

苗畑会議の開催

会員同士の情報・意見交換の場として定期的に会議を開催しています。会議では、協議会の目的達成のため、事業計画に関する事項、事業報告に関する事項、規約の改廃に関する事項などについて話し合います。



会議の様子

より高度な苗木生産へ

専門家の助言と協力

大台町苗木生産協議会ではより一層、生物多様性の高い生態系を保全する体制を整備・充実するため、専門家の意見を取り入れ、技術の向上に努めています。

その一環として、平成 20 年 12 月に「日本植木協会」に入会し、地域の自然再生等に応え得る苗木をどのように生産し、供給していくかなどの情報収集や発信を行い、地域に適合した優良な苗木の生産・流通に取り組んでいます。

また、「自然配植技術協会」に入会、連携をとり、自然のもつ豊かで多様な力をうまく生かしながら緑を創造し保全する自然配植技術を生かして、森林づくりを進めています。

今後は、より良い森林づくりをしていくと共に、苗木生産だけでなくさらなる森林緑化の飛躍を願っています。



日本植木協会國忠先生による育苗指導
(平成 21 年 4 月)



日本植木協会國忠先生による土づくり研修
(平成 21 年 5 月)



自然配植技術協会高田先生による技術研修
(平成 20 年 3 月 奈良教育大学にて)



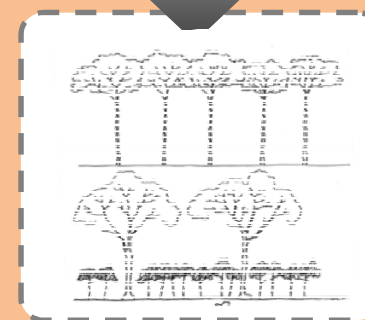
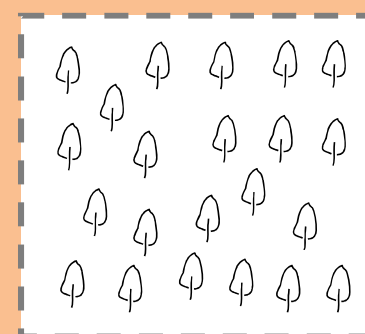
自然配植技術協会高田先生との現地研修
(平成 21 年 2 月 京都一条山にて)

専門家の方々からもアドバイスをいただきながら、将来的にはさらに多様な樹種の生産を目指し、生物多様性の高い森づくりにつなげていきます。

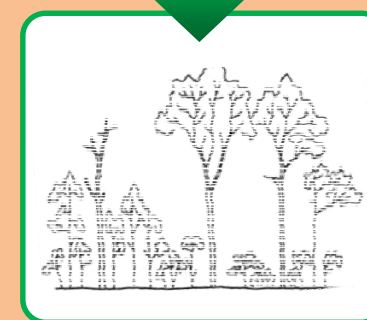
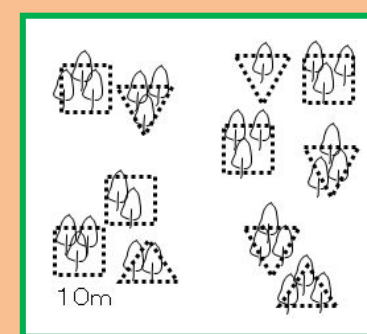
自然配植技術

既往の樹林化技術のように全面を一様に樹林化させるのではなく、異齢林と呼ばれる様々なサイズの樹木が共存できる複相性、モザイク性の高い群落を美しく配置し、何百年後の森の姿のイメージを実現することを大切に植栽技術です。立地条件・樹種特性を最大限生かすランダムかつ集中的な植栽配置、同種の苗木 3 本を三角形に植える巣植え、獣害対策のためのパッチディフェンスの設置を基本とし、植栽する苗木には「地域性苗木」の使用が望まれます。

規則一様/ランダム一様造林



ランダム集中配植造林



規則性のある群落からモザイク性の高い異齢林へ

なぜ異齢林に??

異なるサイズの樹種が群落することで木漏れ日が生まれます。その木漏れ日が樹下の光環境を良くさせ様々な植物、生物を育み多様な生態系を創り出します。

巣植えの効果

遮光の働きによる伸長成長、同種での共存による病原菌への耐性、密植による下草の抑制などの効果が望めます。

パッチディフェンスとは…

従前の防鹿対策と比べてシカの完全排除の効果が高い防鹿柵であり、森林環境の維持に必要な林冠高木の後継樹を育成し、異齢林に誘導するために設置します。

新たな森づくりの展開

自然配植技術を使用した施工例

場所によって育つ木を調査し、景色がきれいな山にするのか、土砂崩れに強い山にするのか、いろいろな植物や生き物がくらす山にするのかなど、山づくりの目標を決めて木を植えます。木は人や動物と違い一度、山に植えると動く事ができません。適さない場所に木を植えてしまう事は、植えた木の寿命を縮めるだけでなく、自然にもどす山づくりが不自然な物になってしまいます。

地域性苗木を活用した植栽は、新規事業の展開や地域林業振興にも役立つと考えています。

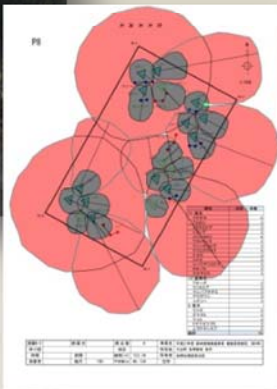
皆伐跡地の造林

皆伐跡地では、従来型の森林・林業施策から転換し、それぞれの森林区分に応じた効果的、効率的な森林施策を展開することとしています。

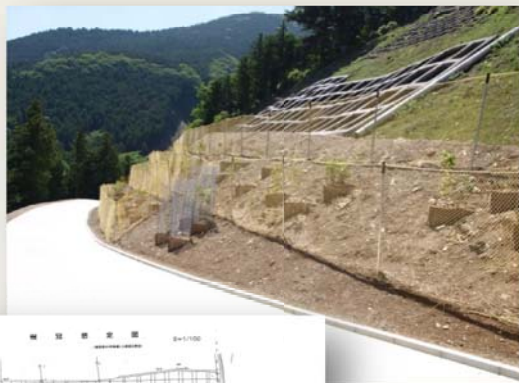
大台町大杉地内桑木谷、神滝地内始神谷においては森林の環境公益の高度発揮を目的とした森林環境創造事業により、植樹を実施しました。



パッチディフェンス



植栽パッチ配植図



パッチディフェンス



樹冠想定図

治山法面の緑化

治山法面では、目的、機能に沿った樹種選択、配置することにより、自然再生、修景、斜面保全を行います。

大台町滝谷地内八知山においては天然素材の簡易法面植栽柵（エコプランター）を使用し、植樹を実施しました。

植樹においては、地域性苗木を積極的に導入し地域生態系の保全に努め、将来的には循環していく仕組みを構築していきます。

漁民の森

三浦漁業協同組合では、森林と海とのつながりを深め水源涵養林の育成を図る目的で、平成9年から大台町大杉地内の大杉谷国有林、平成17年からは同地内の大杉谷林間キャンプ村周辺の町有林に植樹を実施しています。



企業の森

富士通中部システムズでは、CSR活動の一環として、地域の自然回復拠点となる森づくりを目標に、平成19年から、大台町唐櫃地内において植樹・育林を実施しています。

水土里の森

水土里ネット宮川用水では、水源地进行する体験学習会として、平成20年に大台町小切畑地内、平成21年からは藺地内アソ谷に植樹を実施しています。



パッチディフェンス



のまたの森

自然体験活動の場を創造することを目的として、NPO 法人大杉谷自然学校とともに、大台町桧原地内野又谷のホタルの里公園において植樹を実施しました。

生産者の声

大台町 浦谷 協議会副会長 佐今さん



苗木は毎日の管理がとても大切です。水をあげながら、雑草が生えていないか、虫がついていないかなど、まるで我が子を育てるかのように見えています。

それだけに、出荷になると少しさびしい気持ちにさえなりますが、大台の山でたくましく大きく育つ姿を思い浮かべ、送り出しています。

大台町 清滝 協議会会員 左近さん



苗木が育っていくことに楽しみを覚えるとともに、元気がない、いつもと違う様子など、今まで気づかなかったことにも気づくようになりました。

今、大台の山をみると、スギ、ヒノキが目立ちます。葉が開き、花が咲き、実をつけ、葉を落とす、そんな季節とともに変化を楽しめるような山ができればいいと思います。

大台町 神滝 協議会会員 添さん



生産者仲間との間で「高齢になると続けることができるか心配」という話が出ますが、私は毎日の苗木管理で身体を動かすことが健康にもつながると思っています。

また、苗木づくりは小さなことのようにですが、大きな問題を解決するためのはじまり。将来、災害に負けない森林になると信じて育てています。

大台町 浦谷 協議会会員 大森さん



苗木は種から育てて大きくなるまでは山に出せないなので、すぐに結果がでるものではありませんが、今は趣味を兼ねて楽しく育てています。

苗木は落葉樹か常緑樹、また樹種ごとでも必要な光の量が異なります。自宅の苗畑では裏山の林、庭木など日陰も利用し、環境の条件にあわせて苗木を生産しています。

会長より



大台町の自然も時代の流れとともに変化し、昔とは異なる姿になりつつあります。このような状況の中、まだ残っている美しい自然を絶やさず子供たちに残していくために、今、地域で力を結集する必要があると思います。

この取り組みが大台町から広がり、いつか全国でふるさとの苗木が育ち、森になっていくことを願っています。

苗木生産協議会 会長 天野忠一

事務局より

森林、林業をとりまく環境は依然として厳しさが続き、明るさが見えません。スギ、ヒノキの価格は下落を続け、皆伐しても植栽せず放置されています。

環境の面、林地崩壊の面からも、この様な林地に地域性苗木を植栽し、育てていくことは森林組合の責務であり、協議会のみなさんと一致団結して進めていきたいと考えています。50年、100年後にうっそうとした大自然林に返すことが私たちの夢です。



事務局 宮川森林組合 組合長 細渕淳輔